

清水安三と体育・スポーツ ～生誕から崇貞学園まで～

SHIMIZU Yasuzo and Physical Education, Sports
(From Birth to SUTEI Gakuen)

武田 一※1

キーワード： 清水安三，体育・スポーツ，崇貞工読女学校，崇貞学園，桜美林学園

はじめに

2012年本学は、スポーツ活動を推進し、学生等の健康の維持・増進等を図ることを目的として、スポーツ推進センター（以下、センター）を発足させた。センターでは、主に特別強化クラブ（9クラブ）の活動支援を行っており、次の3点をミッションとしている。①クラブ活動を通じて教養豊かな見識高い学生となることを目指す。②競技成績向上による大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）。③「文武不岐」の精神で一般学生の模範となることを目指す。そして、そのミッションを達成するため以下の様な具体的な目標とタイムスケジュールが提示された。

本学園の礎となった崇貞工読女学校が設立（1921年）されてから2021年に創立100周年を迎える。ミッションを達成するため、2021年に特別強化クラブの全国大会優勝を掲げている。高校では、1976（昭和51年）に夏の甲子園大会に初出場、初優勝という快挙を成し遂げた硬式野球部が、「野球の桜美林」というイメージを植え付け、桜美林の名を全国区にした。大学では、チアリーディング部が桜美林の先駆けとして1998・2000年全日本選抜選手権（3連覇）、1999・2000年JAPAN CUP日本選手権（2連覇）、2004年全日本学生選手権を制し優勝した。続いて、弓道部も2000年女子全日本選手権、2005年女子王座決定戦で優勝した。加え、準硬式野球部（現・硬式野球部）は、2007年に全日本大学準硬式野球選手権大会を初制覇した。そして、本年度（2012年）には、ソングリーディング部「CREAM」が世界選手権を過去3回の準優勝の後、悲願の初優勝を遂げるなど、本学園のスポーツも少しずつではあるが活性化している。

学園の祖、清水安三の野球好きは有名であり、母校同志社大学の野球部部長を務めたこともある。特に、高校野球には熱を上げ、練習試合まで見に行くほど、野球に情熱をもっていた。このことから、高校野球をはじめ、スポーツに対して好意的に受け止めていたと考えられる。

※1 TAKEDA, Hajime 桜美林大学総合科学系

しかし、現在、清水安三と体育・スポーツについては、断片的に語られているが、まとめられた研究はない。本研究は、清水安三と体育・スポーツについて誕生から崇貞学園までの間の関連資料をまとめることにより、清水安三から 21 世紀に向けてのメッセージを探ることを目的とした。また、96 歳という長寿で召天された丈夫な身体をつくったエピソードも加えていく。

幼少期（0 ～ 10 歳：1891 ～ 1902 年：明治 24 ～ 35 年）

清水安三は、1891 年（明治 24 年）6 月 1 日、滋賀県高島郡新儀村（現・新旭町）に清水弥七、母ウタの三男として生まれた。母が水田の除草をしていると、産気づいたので急いで家路についたが、途中の田圃の畦道で生まれた¹⁾ そうである。加え、母親は、94 歳で召天したことからも身体が丈夫であり、安三にもその遺伝子が引き継いだと考えられる。生家は豪農の大地主で裕福な家であった。家の近くには小川が流れていて、釣りをしたり、泳いだりしていた^{1) 2)}。

安井川尋常小学校（現・滋賀県高島市立新旭南小学校）は、60 人程の生徒と教師は校長の野呂先生と助教の二人しかいなかった。助教の菅沼先生がオルガンを弾け、体操が出来るため、唱歌、体操を新科目として増設した。校舎は、醤油倉を改造したもので広い校庭があった。学校行事の思い出として、夏、安曇川という大きな川に泳ぎに行ったことをあげている。また、春は日向ぼっこをしながら花園を教室としたり、夏は安曇川の土手や校庭の柳の木陰で学問をしていた。よく氏神の鎮守の森（学校から 15 町：約 1635 m）に体操の代わりと言いお詣りに行っていた。安井川小学校出身者は体が丈夫で読み書きがよくできた¹⁾ そうである。

以上のことから、校長の教育方針が勉強のみならず、自然の中で心身を成長させることに主眼を置いていることがわかる。「先生らしい先生は校長一人きりであっても、何一つ設備がなくとも、広い校庭をもち、近所に天然の美しい林があれば、それでまず、学校としては十分であることを幼少時代に体験しているのである。」（清水安三『石ころの生涯』p.20）、「崇貞学園は、安井川小学校の模倣から発足して居る。」（清水安三『朝陽門外』p.50）と述べていることから教育の原点がこの安井川小学校にあり、広い校庭やその豊かな自然の中で木のぼり、水泳、鬼ごっこなど駆け回っている幼い清水安三の姿が目につく。加え、この環境が丈夫な身体をつくる土台となったと考えられる。

青年期（10 ～ 18 歳：1902 ～ 1910 年：明治 35 ～ 43 年）

尋常 4 年まで安井川尋常小学校で学んだ後、安曇高等小学校、滋賀県立第二中学校（のちの膳所中学校：現・滋賀県立膳所高等学校）に入学した。膳所中学校では、柔道部に所属していた。柔道については、崇貞学園時代に、中国人の車夫に太い革帯で打つ泥酔アメ

リカ兵を足蹴にしてやつつけ、「柔道を学んで応用したことは、それが最初でおそらくは最後であったのである。」(清水『石ころの生涯』p.68)と、また稽古について「柔道を学んだ時に、一再ならず首を絞められて仮死した経験があるが、(後略)」(清水『石ころの生涯』p.138)と述べている。また、ボートも行っていた⁴⁾。

当時、膳所中学校は、スポーツが盛んで特にボート^{注1)}と野球が強かった。野球部は1909年(明治42年)に全国優勝^{注2)}するほどであった。桜美林学園時代の野球への行動について、その時の校長が、青竹にござのむしろ旗を立てて山科街道を京都から大津まで行ったが、清水安三はその校長の真似をしている⁵⁾と語っている。

4歳の時、父弥七(三世：清水家は代々当主には弥七を名のっていた)が腸チフスで亡くなり、長男弥七(四世)が家督を継ぐが放蕩がすぎ清水家は破産してしまった。膳所中時代4年まで、兄の第二夫人の経営する旅館から通学するなど苦勞を重ねていた。「私の中学時代は、一種の劣等感なるものに捉われている哀れな生徒の一人にすぎなかった。」(田中芳三『荒野に花も咲く(賀川豊彦を巡る人々⑤)』p.37)と語ることからも将来の見通しの立たない状態であったと考えられる。しかし、その劣悪な環境とアメリカから来日した英語教師「ウィリアム・メレル・ヴォーリーズ(William Merrell Vories,1880-1964)」との出会いから、中学4年時に洗礼を受けることになり、その後の運命が変わっていった。

以上のことから、青年期は、勉強、スポーツなどに打ち込める環境がなく劣等感を持った不幸な時代を送っていたことが推測される。

注1) 膳所中ボート部：琵琶湖が近いため、ボート競技が盛んであった。現在、ボート部のほかにヨット部があり、2010年3月11日の東日本震災ののち、膳所高校ヨット部は震災でヨットを失った岩手県宮古商高と宮古高ヨット部にFJ級ヨットを送った⁷⁾。

注2) 野球部の全国優勝：実は、この頃、全国大会(1915年から全国中等学校優勝大会が始まる)は行っておらず、この1909年の優勝は、三高(現・京都大学)が主催した東は愛知県から西は愛媛県を含めた関西地域の選抜大会(関西総合大会)であった(この頃は、全国各地で選抜大会が行われていた)。強豪・愛知一中と決勝戦で延長11回大接戦で0×1で覇権を握った^{8) 9) 10) 11) 12)}。しかし、この大会を当時、膳所中学では全国大会⁸⁾と呼んでおり、清水安三はそれゆえに全国優勝と記述したと考えられる。

同志社大学時代(18～23歳：1910～1915年：明治43～大正4年)

同志社時代は、キャッチボールをしていた⁴⁾という記述があり、野球に興味を持っていたことがうかがわれる。同志社の野球部は、1891年(明治24年)に創設されたが、高校と大学の合同チームで部員、部費の確保が難しかった¹³⁾ようである。なお、野球部員名簿に清水安三の名はなかった。

学生生活は貧しく、様々なアルバイトを行っていた。その中で、「ある時は人力車ひきをやったものだ。後年私は軍隊に入ったが、早駆け競争はいつも中隊で一番を取った。人力車夫を

して働いたことが、私の脚力をつくったのかもしれない。」(清水『石ころの生涯』p.33)と述べている。また、オオシロ・ジョージは、「親譲りの丈夫な体に恵まれたことに加え、生活上の必要性から身に付いた勤労の習慣によって得た強靱な肉体を持っていた。若い頃に人力車をひいたり、洗濯物の配達に京都市内を駆け回るような重労働のおかげで、体力がつき、また、彼の精神力も大いに強められたに違いない。後年、安三は貧困のため、様々な障害があったことは、結果として自分のためになったのだということに気がついた」(桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編『清水安三の思想と教育実践』p.52)と述べている。

1913年(大正2年)、四年生の時、柏崎へ夏期伝道に行かされたが、柏崎の駅に着くが迎えの者がいなかったため、海岸で泳いでいた。平泳ぎで泳いでいると珍しい泳法だと小学生が寄ってきて、土曜日まで学校の宿直室に寝泊まりして水泳のコーチをした⁴⁾。このことから、水泳が得意で子供に教えることが好きな教育者としての一面が垣間見える。

歩兵第9連隊時代(24～25歳：1915～1917年：大正4～6年)

一年志願兵として入隊した。8貫目(30kg)もある背囊や鉄砲をかついで一日56km、60kmの長距離の強行軍でも一度も落伍したことがなく、教練後の早駆けでは中隊でいつも一番であった¹⁾。

このように、幼少期から青年期にかけて足腰を鍛錬する身体活動が清水安三の体力増進に役立っていたと考えられる。

児童館開設(26～28歳：1917～1920年：大正6～9年)

1917年(大正6年)布教のため中国に渡ると翌年1918年(大正7年)に奉天の小西辺門外にあった旧ロシア武官の公館(大きな洋館)を賃借し、教会と牧師館にした。そして、教会のとても広い芝生の庭にブランコ、円木、すべり台等こしらえ、児童館とした。毎日大勢の子供が集まり、中国人、朝鮮人、日本人が1/3ずつであった。子供に日本語を教え、軍隊で教わったスウェーデン式の体操^{注3)}をやらせた。また、門前に池があり、冬に氷が張ると、池の中央に電柱を建て大きい電燈をつけスケート場を造った。このスケート場には、昼間は子供たち、夜は大人たちが来て滑った。スケートは、ロシア人が多かった^{3) 6)}そうである。

当時、児童館を開設し子供を集めることでも画期的であったが、その上、体操やスケートなど近代スポーツを取り入れている点に清水安三は、身体を動かすことの楽しみを知っており、また、布教の人集めの手段としていたと考えられる。

注3) スウェーデン体操^{15) 16)}：グーツムーツやフィート、ペスタロッツなどから影響を受けたといわれるスウェーデン人リング(P. H. Ring 1776-1839)の案出した体操。目的などによって教育体操、軍事体操、医療体操、芸術体操の四つに区分している。解剖学・生理学を基

礎とし、年齢・能力に応じて身体各部・各機能の均整した発達を図るもの、日本の学校体操の基本をなした。清水安三の教えた体操は、徒手体操を中心とした教育体操と考えられる。

崇貞学園時代（28～54歳：1920～1945年：大正9～昭和20年）

崇貞学園^{注4)}の建学の精神は、キリスト教に基づいた三H主義（Hand, Head, Heart）^{3) 17)}であった。しかし、（Head, Heart, Health）¹⁸⁾との証言もある。また、校歌の三番は、「女児身体更南宜強 体操唱歌楽洋洋 強国根基在少年 不讓男子著先鞭」^{1) 17)}とあり、意味は「体育を高調し、強国の根本は少年にあってしかも男子に先鞭をつけさせぬ。」（桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編『清水安三・郁子研究 創刊号』p.45）ということである。

生徒の手記の中には、「私は運動が大好きでした。北京市内高女対抗陸上競技には私も出場し、優勝して安三先生や小竹（信行）先生を喜ばしたことも覚えています。」（学校法人桜美林学園「木槿の花が咲く頃」p.45）、友達の紹介に「（彼女は）九州の方です。彼女は学校で短距離走の名人です。」（前掲書「木槿の花が咲く頃」p.84）とある。また、生徒の鈴木（山崎）文子は、「中学二年の時でした。体操の先生がおやめになったと云う事情があったのですが、運動会のダンスを二曲振りつけて皆に教える様に云われ、（略）先生に励まされて、『日の丸行進曲』を両手に旗を持ってマスゲーム的なダンスに。もう一曲は『荒城の月』だったと思いますが、優雅に振り付け、一年生と合同で舞いました。どこに経験のない未熟な子供に踊りを教えさせる人がいるのでしょうか。安三先生のやり方はいつも理屈でなく実行でした。」（前掲書「木槿の花が咲く頃」p.49）と述べている。宮本寛子先生は、「新任の先生の紹介を受けた時に、この人は体育の先生としてきましたといわれて、腰が抜けるほど驚いてしまった。私はそんなこと全然考えていなかった。体育のことなどまったく知らないんですね。」（前掲書「木槿の花が咲く頃」p.102）（1943:昭和18年）と語っている。

夏の合宿は、中昆明湖の湖畔で行い、食事の支度、勉強したり泳いだり、レクリエーション等楽しい¹⁸⁾ものだった（1944年頃：昭和19年頃）。

この様に、崇貞学園では、戦前の女子の学校としては、珍しく体育・スポーツが盛んで自由な雰囲気がうかがわれる。

注4) 崇貞学園：「崇」とは至高で、「貞」とは不二の意味である。当時、朝陽門外では極貧の生活の中で身売りや貞操が売買されていた。そのため女性たちに自活させ、高い貞操、不二の貞操という意味で崇貞の二文字を使った。また、もう一つの由来は、当時北京のもっとも古い崇慈女子中学の「崇」、慕貞女子中学の「貞」を併せたものである^{1) 3) 17)}。

崇貞学園の創立は、1920年説と1921年説があるが、小林茂⁴⁾は、1920年（大正9年）5月28日に寺子屋式の崇貞学園がひっそりと創立し、1921年（大正10年）5月28日に正式に崇貞工読女学校、あるいは崇貞学園をスタートしたとしている。現在、桜美林学園では、1921年を公式の創立記念年としている。

1) オベリン大学時代 (33 ～ 34 歳：1924 ～ 1926：大正 13 ～ 15 年)

オベリン大学^{注5)} 当時の清水安三と体育・スポーツ関係の資料は、見当たらない。また、他の生活の手がかりも断片的に記録している以外、ほとんどない³⁾。

しかし、オベリン大学キャンパスについての記述はある。実験用の建物、美術館、体育館、寄宿舍など 35 の建物があり、神学生は大学の美術館、礼拝堂、体育館、運動場も使うことができた²⁾ と述べている。

また、シカゴにいた同志社時代の友人が見物に案内してくれた時に、自慢論争となり、友人が「このフットボール運動場は、六万人も入るぞ」と言う。「大阪の甲子園は十万人入れる」とやりあっている⁴⁾。

このことから、オベリン大のキャンパスやシカゴのスポーツ施設などを見学したことが、理想のキャンパスを思い浮かべるベースになったと考えられる。

注5) オベリン大学： オーバリン大学 (Oberlin College) は、1833 年創立のニューイングランド・ピューリタニズムの伝統をひく会衆派系の大学。名前の由来は、創立者の J. J. シパーード (John Jay Shipherd, 1802-1844) と P. P. スチュワート (Philo Penfield Stewart, 1798-1768) が尊敬してやまなかった「アルザスの聖者」ジョン・フレディック・オーバリン (John Frederick Oberlin, 1740-1826) である。建学の精神は、労働と奉仕である。また、黒人を受け入れた最初の大学の一つであり、かつ、女性を四年生の学部に入學させた初の大学である。場所は、米国オハイオ州クリーブランドから西へ約 50km の閑静な学園都市オーバリンにある¹⁴⁾。

2) 同志社大学講師時代 (36 ～ 41 歳：1928 ～ 1933 年：昭和 2 ～ 8 年)

野球部部长 (昭和 6 ～ 7 年)

同志社大学野球部部史¹³⁾ の年表 (資料 1) によると、昭和 6 年の部長欄に「清水」の名があり、昭和 7 年は、空欄であるが、表の見方からすると 7 年も部長だったことが推測される。年表には、昭和 5 年以前の部長、監督、主将、主務、在籍部員の欄は空欄であり、清水安三が昭和 5 年以前部長だったかは不明である。また、7 年に辞任していることから、昭和 6 ～ 7 年は確かに野球部部长をしていた。

この頃の関西学生野球は、混乱の時期であった。昭和 2 ～ 5 年に大阪毎日新聞社と大阪朝日新聞社の抗争で関西野球連盟構想が挫折しリーグが分裂してしまった。そのような状況の中で、清水安三は、様々なゴタゴタ続きで部員もそろわない野球部の面倒を見させられた可能性もある。なお、関西 6 大学リーグの発足は、昭和 6 年 9 月である。野球部借金の件で、「私の部長にできた借りでもないのに (後略)」¹⁾ とあることから、長期にわたり部長を務めていたのではなく、状況も知らぬまま、昭和 6 年に部長に就任し、昭和 7 年に様々な要因のもと解雇となったと考えるのがスムーズであろう。「清水安三の思想と

教育実践」¹⁴⁾の年譜では、1930年（昭和5年）4月に同志社大講師、野球部部長、1932年（昭和7年）3月24日同志社大学講師辞任の記載がある。年号のずれがあるが、部長として2年間行っていることが分かる。

また、次のようなトラブルも起こしている。当時野球部の副主将をしていた松井徳三にまつわる話として、「昭和6年の秋のこと、このおふたりが京都駅でバツタリと出会った。松井氏は甲子園で行われる関西大学との定期戦のため、全選手と駅で車を待っていたのである。そこへ部長が顔を出されたのでわざわざ先生がと丁寧に挨拶したところ『ぼくはこれから花園ラグビー場へ京大との試合を見に行くんだ』といわれる。野球部部長が野球の応援に行かずラグビー観戦とは、と選手たちは大いに憤慨した。翌日松井氏は主将と二人で先生を訪ね『部長を即辞任してくれ』と迫ったところ、その席に山田貞夫予科長がおられ『先生に対して何と失礼なことを』とたしなめられ、二人は不承不詳引き下がった。」（小林茂『東支那海を越えて』p.201）このことについて、小林茂は、「私には、野球部長ありながらラグビー観戦を優先させた安三先生の臍曲がりに興味を抱く。だがそれにしてもあの野球狂いの安三先生が、野球以外に興味を持ったスポーツがあったとは意外であった。」（小林『東支那海を越えて』p.202）と述べている。大好きな野球の試合に行かなかったことから、もうこのあたりから同志社とはトラブルがあったのではと推測される。

そして、同志社大学を解雇される理由としては、三点あげられる。それは、野尻湖事件、野球部事件、カンニング事件である。

野尻湖の湖辺で崇貞学園のゲストアール、テーブルクローズ、ベットカバー、ビューロライナー等を買っているところを同志社の大工原総長にみられたことや野球部長としてのやり方が同志社の幹部の御意にそぐわなかったのか³⁾と述べている。野球部長時には、「野球部は何千円か、運動具店に支払いが溜まっていた。その運動具店主がたまたまチブスだったか赤痢だったかで入院したので、店員が困って三百円だったか、何でも三分の一か四分の一のお金で帳消しするから、キャッシュをくれといったのでわたしは肚をきめてそれを承認してやったのである。するとそれは縁日商人がやることだと言って遂に、わたくしの部長時代に出来た借りでもないのに、法廷にまで立たねばならぬことになり、裁判の費用だけでもずっとそれよりも余計に要り、新聞に書かれるなど恥を世に晒したのだった。」（清水『朝陽門外』pp.171-172）と述べている。また、「野球部に、3万何千円の借金があった。そこでそれをなくすために、私が立教の選手を呼んで、できたばかりのグラウンドで一枚五十円（昭和49年頃の物価基準で）の切符を売った。そうしたらそれが総長の逆鱗に触れて、清水安三は商売人になるべきで教育家になるべきものじゃないと同志社の総長に言われた。」（桜美林学園同窓会『せん方尽くれども』p.51）ともある。

また、もう一つの要因として、カンニング事件がある。試験中、一人の学生が英語を大きな声で訳読し、周りの学生が聞いたという事件で、カンニングは退校のところ、清水安三は、親に卒業までこのようなことをしないよう一筆書かせ終わらせようとしたが、この中に同志社の幹部の子弟がいたため問題になった¹⁾³⁾ともある。

このような背景には、当時、同志社大学学内で紛争があったため、外部から九州帝国大学総長を定年した大工原銀太郎を総長に迎えたこと¹⁹⁾と、昭和7年3月28日に文部省から出された野球統制令^{注6)}も係わりがあると考えられる。要するに厳格な総長に変わったことと金銭的にかかわる件が、おおらかな同志社に育った清水安三に合わない環境となったためトラブルの連続だったことであろう。

野球以外のスポーツについては、同志社を去る時に、所有物の中に、「テニスをする時に使用する靴」(清水『朝陽門外』p.267)とあることから、当時テニスを行っていたことがうかがえる。

注6) 野球統制令¹⁹⁾： 野球を通して、金銭授受にからむことを禁止した訓令。当時、東京六大学リーグを中心に学生野球が大ブームであり、有名校の試合にはギャラが支払われたり、選手勧誘に伴う金品、奨学金、生活費の授受など選手も周囲のものも泥まみれになっていた。また、東京六大学リーグでの入場料収入が多すぎることも問題となっていた。

昭和 二一 三六 年優 勝回 数	後編＜第一期＞(16年間)																		中断	昭和 六 十七 年優 勝回 数	部史前編(12年間)												昭和 六 十八 年	明 治 三 十 八 年	和 暦 年	特記事項						
	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18		17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3							
	渡辺監督就任	大学選手権準V	合宿所完成									堀口監督就任					リーグ戦再開																									
同6	関立	同立	学学	関立	関立	同立	学学	学関	学関	学関	関同	学関	立学	同立	同立					同4	同同	同同	関関	立京	関立	関関	関関	関京	関関	関関	関関	山田	清水	春秋	優勝 部長監督							
関10	堀口	渡辺	金子	越山	橋詰	辻村	倉森	小野	甲良	藤田	黒田	青島	谷村	酒井	酒井	酒井	徳網	芹野	寺本	堀口	学0	渡辺	笹谷	竹内	木田	大河内	伊藤	吉谷	松井	副島	副島			主将								
学9	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0						
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0				
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0			
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0				
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0			
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0
立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	
京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0		
神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立7	京0	神0	立																										

資料1 同志社大学野球部部長の記録¹³⁾

3) 崇貞学園の体育施設と体育・スポーツ

(39～50歳：1930～1941頃：昭和5～16年)

北京陳経綸中学校^{注7)}の李正勲副校長(1999年当時)によると、崇貞学園は、1930年(昭和5年)5月に新校舎建築がスタートし、合計9室ある校舎に1931年4月に移転するが、資金難のため工事が中断するも、1936年(昭和11年)3月に講堂・二階建の校舎一棟、運動場、図書館などを備えた合計168室もある学校が完成した¹⁸⁾とある。1938年には、家政館、寄宿舎、図書館、体育館を建設していった²⁰⁾。また、1940年5月2日に体育館増築が完成¹⁷⁾する。校庭はとても広く、七千坪あった¹⁴⁾(崇貞学園、最初の敷地は、高木貞衛氏が購入された千七百坪であった³⁾)。また、1939年(昭和14年)当時の崇貞学園概要は、経営者は清水安三(園主)、清水郁子(園長)、地点是北京朝陽門外芳草草地、校地は約八千坪、校舎は支那式建物3棟(講堂、教室、体育館、図書館)、寄宿舎14棟、小学部生徒数213名、中学部生徒数55名、日本女子中学部23名、合計291名、現在職員として日本人8名、中国人14名、米国人1名¹⁴⁾と記載されている。学科課程において、体育(小学部：体操、中学部：体育衛生、日本女子中学部：体操舞踊)は、各学年週2時間あった¹⁴⁾。

卒業生の李玲敏²¹⁾、孫英²¹⁾、川上奈穂²¹⁾、中村(増田)年子¹⁸⁾によると、崇貞学園の体育施設は、グラウンドとして400mのトラックがあり西側には当時の朝陽区内で唯一の立派な屋外スタンド(写真1)が併設されており、生徒はそれを自慢していた。スタンドに座って英単語を暗記したり、後ろの庭には色々な草木が植えられて崇貞学園は大きな公園のようだった。また、学校の東側にある長方形をした体育館は、大きなホールと演台を備えた、北京市内で数少ない立派な体育館であった。中国で精華大学に次いで二番目に立派だった⁵⁾。体育館には、更衣室、シャワーも整っていて、映画も上映できるような設備があった^{14) 22)}。この体育館は、寒い北京の冬に女子生徒が体を動かすため清水郁子が発案し建築した²²⁾。

教員について、孫は、体育科の教員は、「徐志芳先生のほかに安三先生が北京体育学院から招聘した若い男性教員が二名いた。」(桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編『崇貞・桜美林の教育 創立60周年記念』p.130)と述べている。川上は、「体操等各課目の王先生、劉先生是北京体育学院卒で普通の体育課目はほとんど網羅していた上、太極拳課(国術と称した)が週1回あった。私のようなスポーツが不得意な生徒でも、バスケットボール、ソフトボール(女子壘球)等の課目があり、私は打者ばかりやられた。全然自信がなかったのに案外、球が当たったことを覚えている。」(前掲『清水安三の思想と教育実践』p.165、前掲『崇貞・桜美林の教育 創立60周年記念』p.140)と述べている。李は、「長尾先生が体育を教えました。体育授業は40分か50分でした。長尾先生の授業は少なかったです。長尾先生は体育専門の先生ではなかったのです。どのように体育を教えれば、いいかわからなかったのです。あまり体育らしい授業はありませんでした。体育の授業にな

りますと、走るだけの運動でした。」(桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編『清水安三・郁子研究第3号』p.104)と述べている。

1942年(昭和17年)の教員履歴表²⁰⁾では、体操の教員は、兼任で河野静士(広島高等師範学校出身:30歳)一人で9時間(週)受け持っている。課程表²⁰⁾での体操は、月～土曜日毎朝15分、週2回(各45分)時間割に入っている。校具教具目録²⁰⁾には、運動機器として、品目:バスケットボール、滑り台、数量:17件、価値:原価2,700円、時価7,000円と記載されている。



写真1 崇貞学園、グラウンドの屋外スタンド1932年頃完成、清水安三と郁子²⁰⁾

崇貞学園では、毎朝の体操(写真2)^{注8)}が課されており、一人がスタンドから号令をかけ、もう一人がグラウンドを巡回した。その風景は、先生の声だけが響く中で、全校生徒が私語もせず、一斉に体操する姿は壮観であった。また、グラウンドでは、春に運動会が行われていた。体育館と大きなホールでは、体操、バレーボール、卓球の体育実技のほかにも講話、発表会、クリスマス会などが行われていた。体育の授業では、健康に関することも教授されており生徒は健康に興味をもっていた。

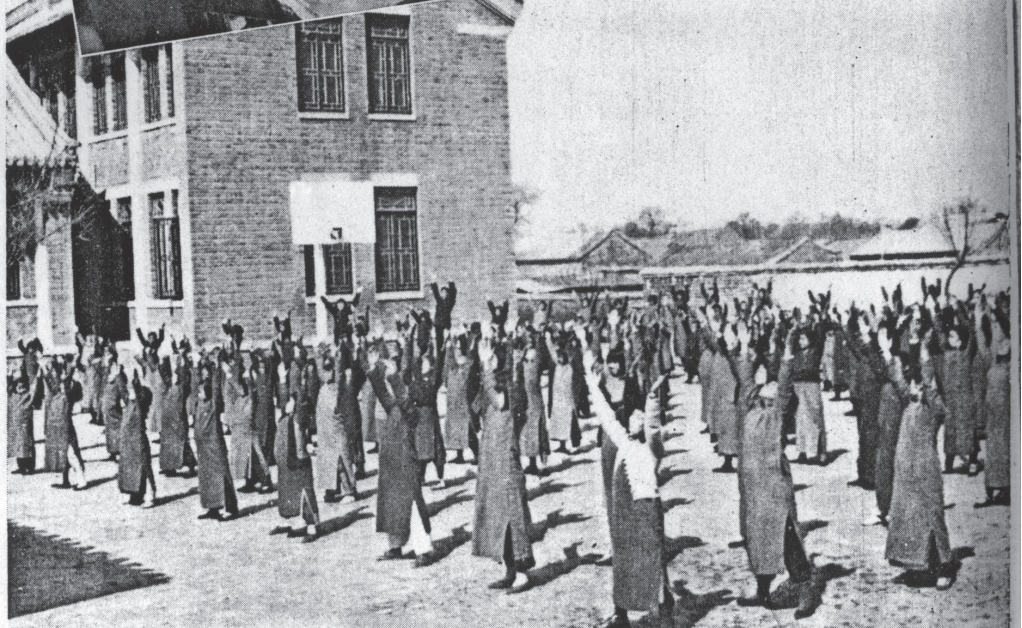


写真 2 崇貞学園，朝の体操³⁾

以上のことから、体育施設の規模、体育教員の数などから清水安三が体育・スポーツの重要性を感じていたことが推測される。しかし実際は、清水郁子によって教育施設を充実拡張させていた。清水安三は「毎年毎年、郁子先生が新しい校舎を建てていくことに対して、ペスタラッチが逃げていく（中略）困る、困る。」（前掲『清水安三の思想と教育実践』p.175）と述べながらも崇貞学園の施設の自慢を来校者等に行っている。

注 7) 北京陳経綸中学校： 崇貞平民女子工読学校（1921 年）、崇貞女学校（1931 年）、崇貞学園（1936 年）、北京市第四女子中学（1945 年）、朝陽中学（1967 年）を経て、1991 年から北京市陳経綸中学となる。名前の由来は、多額に寄付された香港在住の陳経綸氏による。

注 8) 朝の体操： 月～土の毎朝、15 分行われていた。写真からは徒手体操と考えられる。李紅衛は、「朝はラジオ体操にはじまり、（後略）」¹⁴⁾と記載しているが、日本でのラジオ体操は、1928 年 11 月 1 日（昭和 3 年）に東京で放送されたのが最初であるため（全国放送は、1929 年 2 月 11 日）、崇貞学園開校当初は、児童館開設時に行っていたスウェーデン体操が行われていたと考える。孫は、ラジオ体操ではなく号令をかけて行った²³⁾と述べている。その後、ラジオ体操が用いられたのか、崇貞学園の朝のスウェーデン体操をラジオ体操と錯誤したのかは不明である。

おわりに

清水安三は、生まれ故郷の豊かな自然の中、身体を動かすことにより体育・スポーツの楽しさ、心身への教育感が生まれていったと考える。特に、安井川尋常小学校の広い校庭、美しい林がある環境での経験は、崇貞学園の学園施設の基礎となっていた。青年期には、柔道部に入り体を鍛え、水辺があったことから水泳、ボートなどにも勤しんでいた。また、当時、膳所中学は野球が盛んなこともあり、このことが桜美林学園での野球に熱中した基礎となったと考えられる。

身体の堅固さは、親からの遺伝子と、それに加え、学生時代の車引きなどのアルバイトや一年志願兵として入隊した連隊で粘り強く行った心の強さによる鍛錬が基礎となった。その強靱な心身があったからこそ、「先方つくれども望みを失わず」の精神が宿ったと考えられる。

中国に渡ってからは、児童館、崇貞学園（合宿含む）で体操、スケート、陸上競技、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、卓球、ダンス、水泳、太極拳など多彩な体育・スポーツを行っており、毎朝の体操、週2回ある体育の時間があつた。また、特筆されるのは、屋外スタンドを持つ400 mトラックとシャワー・映画の上映施設を持つ大きく立派な体育館の設置である。なお施設の建設については、清水郁子の計画性と尽力があつた。

以上のことから、本学の創始者清水安三と清水郁子が体育・スポーツが心身の教育に大切であることを認識していたと考えられる。

このことを踏まえると、今後本学園は、勉学に加え、体育・スポーツを通じた心身の教育も大切にしなければならないと考える。センターでの、ミッション「①クラブ活動を通じて教養豊かな見識高い学生となることを目指す。②競技成績向上による大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）。③「文武不岐」の精神で一般学生の模範となることを目指す。」は、創始者からの21世紀へのメッセージと合致し、押し進ませなければいけないと考える。

引用・参考文献

- 1) 清水安三：石ころの生涯－崇貞・桜美林物語－，キリスト新聞社，18-20，29，33，45-46，66，68，138（1977）
- 2) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：日米交流史における清水安三と郁子，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，14，25（2005）
- 3) 清水安三：朝陽門外，朝日新聞，写真4，50，82，114，147，149，171-172，189，267（1939）
- 4) 小林茂：「東支那海を越えて」－清水安三先生の前半生－，リョーイン，58，63，114，120，168，201-202（2011）

- 5) 桜美林学園同窓会：せん方尽くれども，サン・メールサービス，51，89，122（2006）
- 6) 田中芳三：荒野に花も咲く（賀川豊彦を巡る人々⑤），一麦社，30-31，36-38，（1980）
- 7) 東日本震災 滋賀からの友情のヨット 練習艇失った岩手・宮古商，宮古高：毎日新聞 京朝刊，26（2011.5.1）
- 8) 滋賀県高等学校野球連盟編：球蹟 滋賀県高等学校野球連盟史，山田印刷，527-528（1994）
- 9) 野球研究会：月刊ベースボール Vol.2 No.12，博文館東京堂，38（1909）
- 10) 野球研究会：月刊ベースボール Vol.2 No.13，博文館東京堂，40（1909）
- 11) 第三高等学校野球部神陵倶楽部：三高野球部史，合同印刷，35（1992）
- 12) 愛知一中野球倶楽部：愛知一中野球部史，日大印刷，55（1961）
- 13) 同志社大学野球部 OB 会（部史編集委員会）編：同志社大学野球部史後編 I，かたまち印刷，38-43（2007）
- 14) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水安三の思想と教育実践－戦前・戦中を中心として－，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，52，64，69，104，106-107，128，175，189（2001）
- 15) 浅見俊雄・宮下充正・渡辺融編：現代体育・スポーツ大系第 2 巻体育・スポーツの歴史，講談社，93-94（1984）
- 16) 新村出編：広辞苑第五版，岩波書店，1413（1998）
- 17) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水安三・郁子研究 創刊号，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，42-46（2009）
- 18) 学校法人桜美林学園：木槿の花が咲く頃－崇貞学園の清水安三先生，はる書房，30，45，51，54-55，84（2001）
- 19) 同志社大学野球部 OB 会（部史編集委員会）編：同志社大学野球部部史前編，東洋印刷製本，95-115，138-139（1993）
- 20) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水郁子の思想と教育実践，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，85，88，94，97-100，102（2004）
- 21) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：崇貞・桜美林の教育 創立 60 周年記念，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，122-123，130，140，（2007）
- 22) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水安三・郁子研究 第 3 号，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，104（2011）
- 23) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水安三・郁子研究 第 4 号，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，70（2012）
- 24) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：創始者たちの信仰と生き方，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，（2007）
- 25) 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編：清水安三・郁子研究 第 2 号，桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」，（2010）
- 26) 清水安三：希望を失わず，桜美林学園出版印刷部，（1951）